

日本語学会第168回大会 大会報告

服部壮留
東京外国語大学 博士前期課程

2024/07/10

目次

- - - - -
- - - - -

目次

- - - - -
- - - - -

✓ ✓ i

168

: 2024 6 29 () 30 ()

:

:

:
:
:

√ √ i

168

1

: 19

: 31

2

:

:

:

4

4

()

目次

- - - - -
- - - - -

発表紹介①

1. 〰 δ α:

1. 〰 1:

()

B-1

要旨

前提知識

目的

研究法

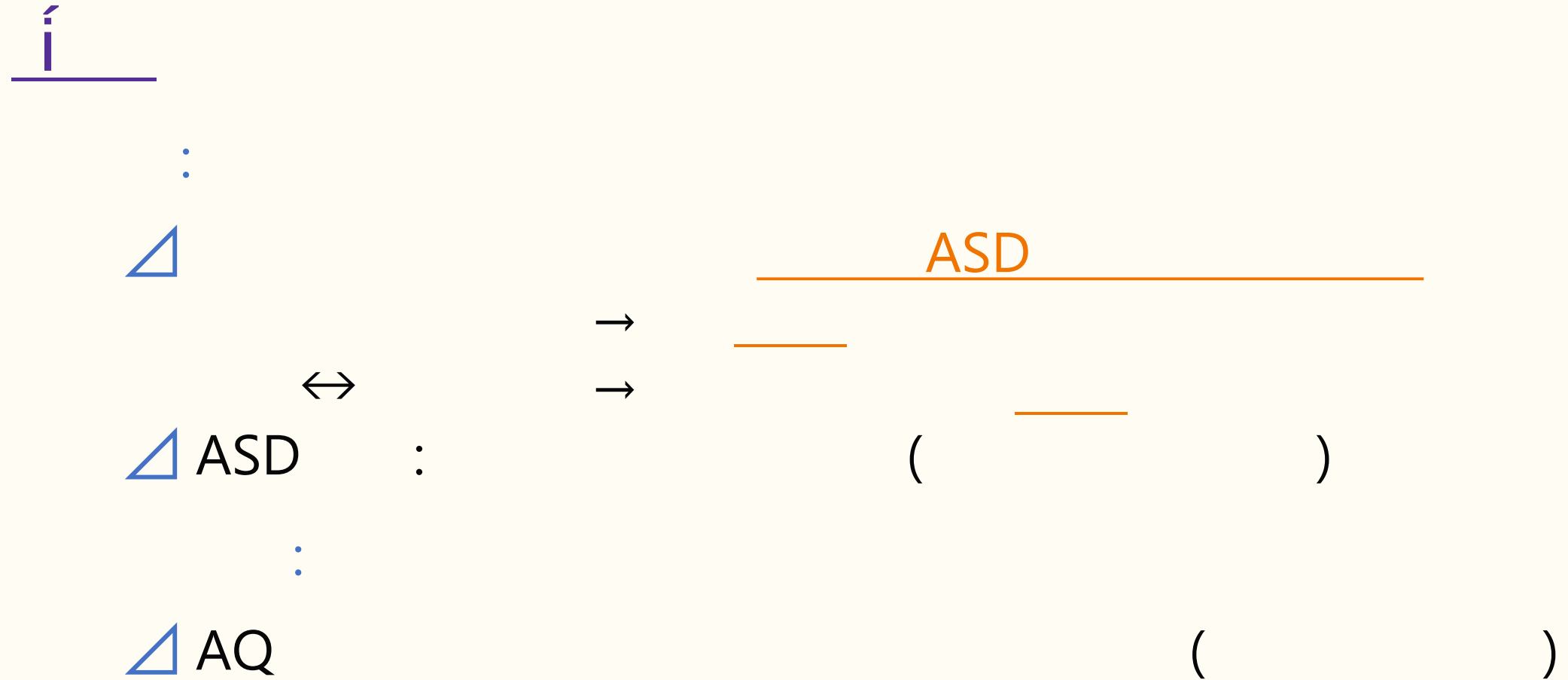
結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△

△

△

:

()

△

:

:

()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△

△

:

—

→

、 ” 、 、

:

△

:

—

→

く い

:

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△ ASD

△

→

()

△

: TD

()

→

()

△ AQ ()

△ AQ: ASD

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△ ASD

(Sinha et al. 2014)



ASD



K

K

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△ ()

△

W_t

W_{t+1}

→ ex.)

5

(t=4)
(t+1=5)

△

→ Entropy (t)

↓ 7 ` i 1 n M ' 6 3 0

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1

△

$$entropy(t) = - \sum_{w_{t+1} \in W} P(w_{t+1} | w_1, \dots, w_t) \log P(w_{t+1} | w_1, \dots, w_t)$$

△

W_t

W_{t+1}

→ ex.)

5

(t+1=5)

(t=4)

△

→ Entropy (t)

↓ 7 ` i 1 n M ' 6 3 0

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\bar{\alpha}$ N



ASD



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\vec{\alpha}$ $\wedge$ —



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\bar{\alpha}$ N —



ASD



AQ

TD

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\bar{\alpha}$ $\wedge$ —



ASD

AQ

TD

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\vec{I} \sim N^2$

$\triangle$: 2

$\triangle$ /

$\triangle$ CEJC 60 AQ

()
(1000)

AQ (1167 / 2064)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

い ん ん

()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

い ん ん

AQ

()

()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\vec{I}^n$ N^n

AQ

()

()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

$\frac{1}{2} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{2}$

()

AQ

()



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1. $\frac{1}{2}$ 2. $\frac{1}{4}$ 3. $\frac{1}{8}$

()

AQ

$$(\quad)$$


要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

1. $\frac{1}{2}$ 2. $\frac{1}{4}$ 3. $\frac{1}{8}$

()

AQ

$$(\quad)$$


要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する感情表現の傾向の相関

$\frac{1}{2} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{2}$

AQ

()

7 4 1 1 4 7
 J 5 .
 K K K

()

6

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

△ _____ :

△ _____ :

()

△

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関



_____ :



_____ :

()



_____ :

_____ (t p=0.091 α=0.05)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

△ _____ :

ASD

△ _____ :

()

AQ

△

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

△ _____ :

ASD

△ _____ :

()

AQ

△ _____ :

10

29 (15) AQ

($r=0.415$)

$p=0.048$ ($\alpha=0.05$)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関



ASD



→ ASD (AP)



→ AP



→ ASD

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関



△ AQ

ASD

TD

ASD

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

3

(

)



Q.

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

3

()



Q.

ex.)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

3

(

)



Q.

ex.)

→

→



→

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介①

発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

目次

- - - - -
- - - - -

発表紹介②

1. 〰 δ 〰:

1. 〰 1:

()

C-2

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

i

:



:



()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

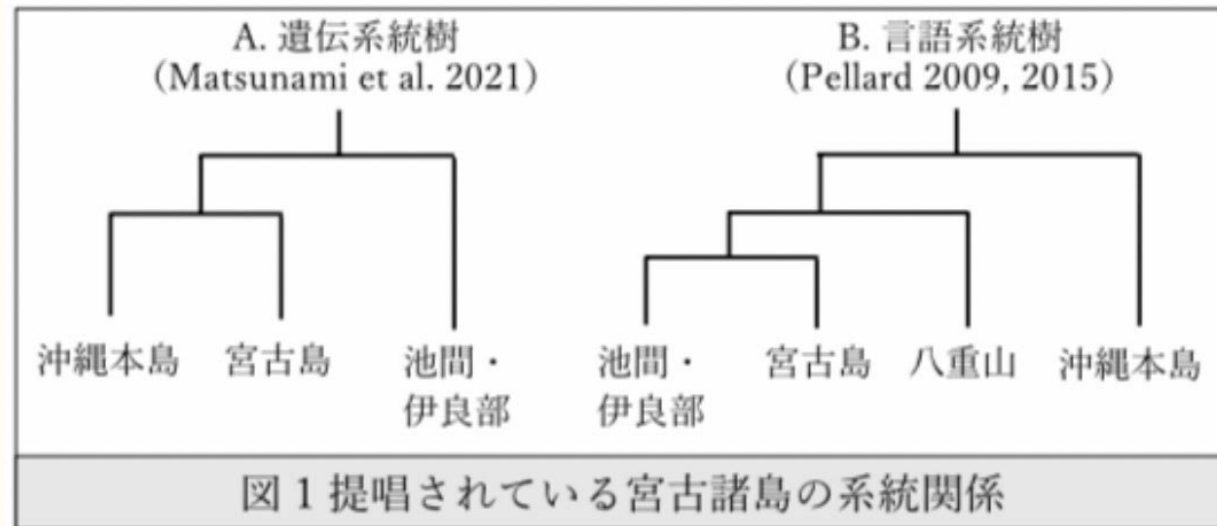
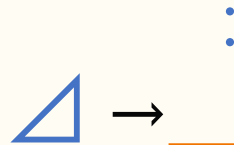
結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1



: 98

要旨

前提知識

目的

研究法

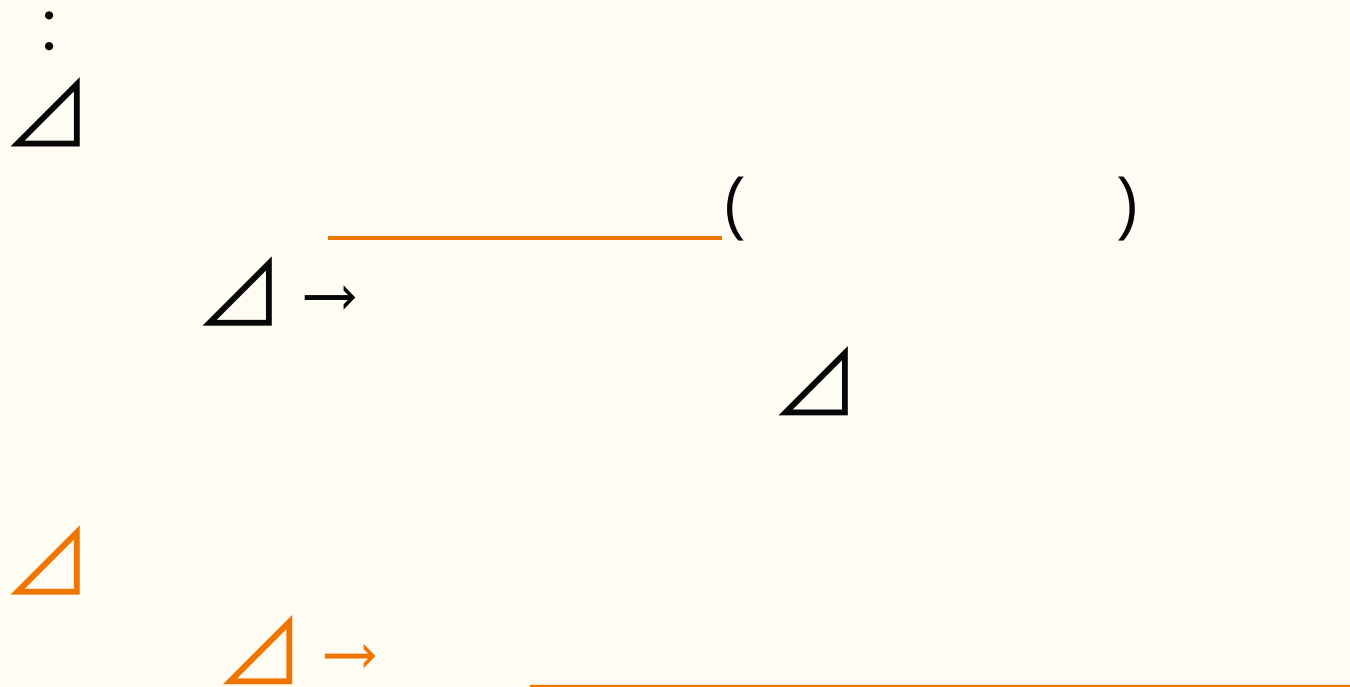
結果

結論

質問等

発表紹介②

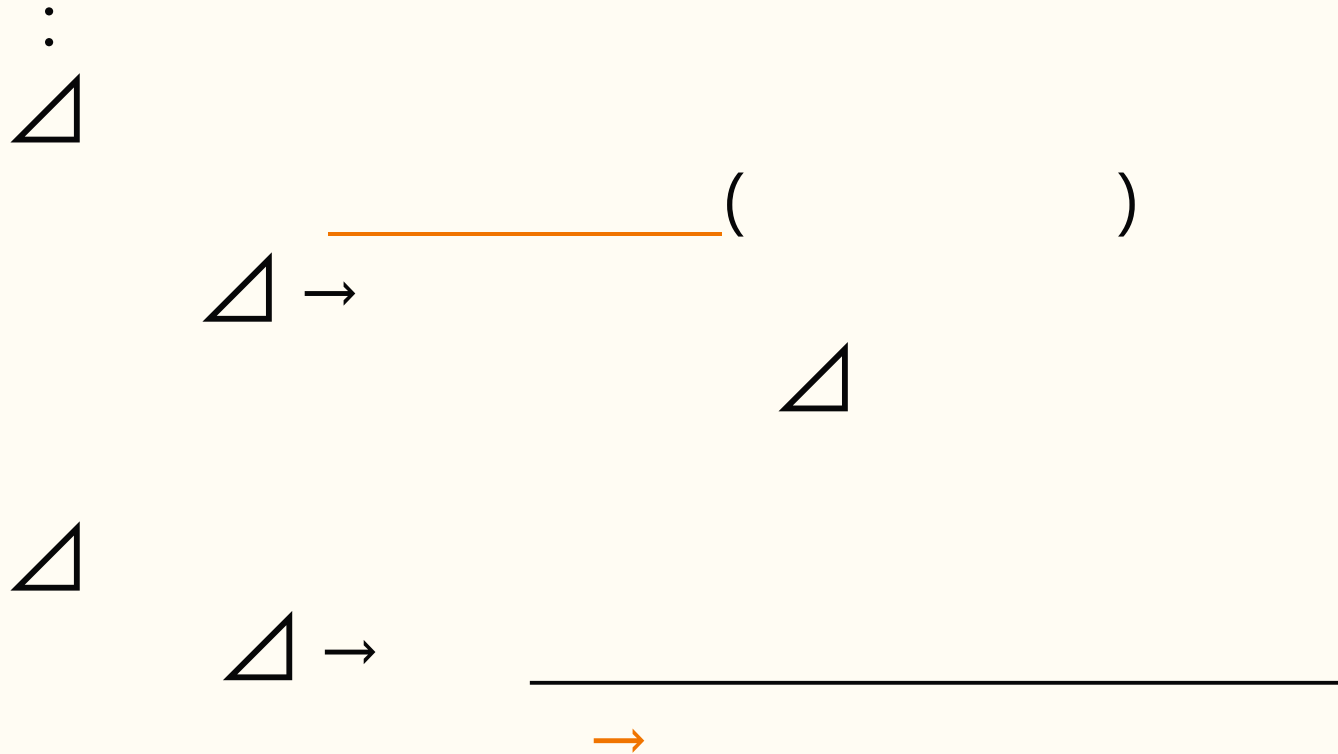
琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1

△
⋮

4

[y]²

[x]

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1

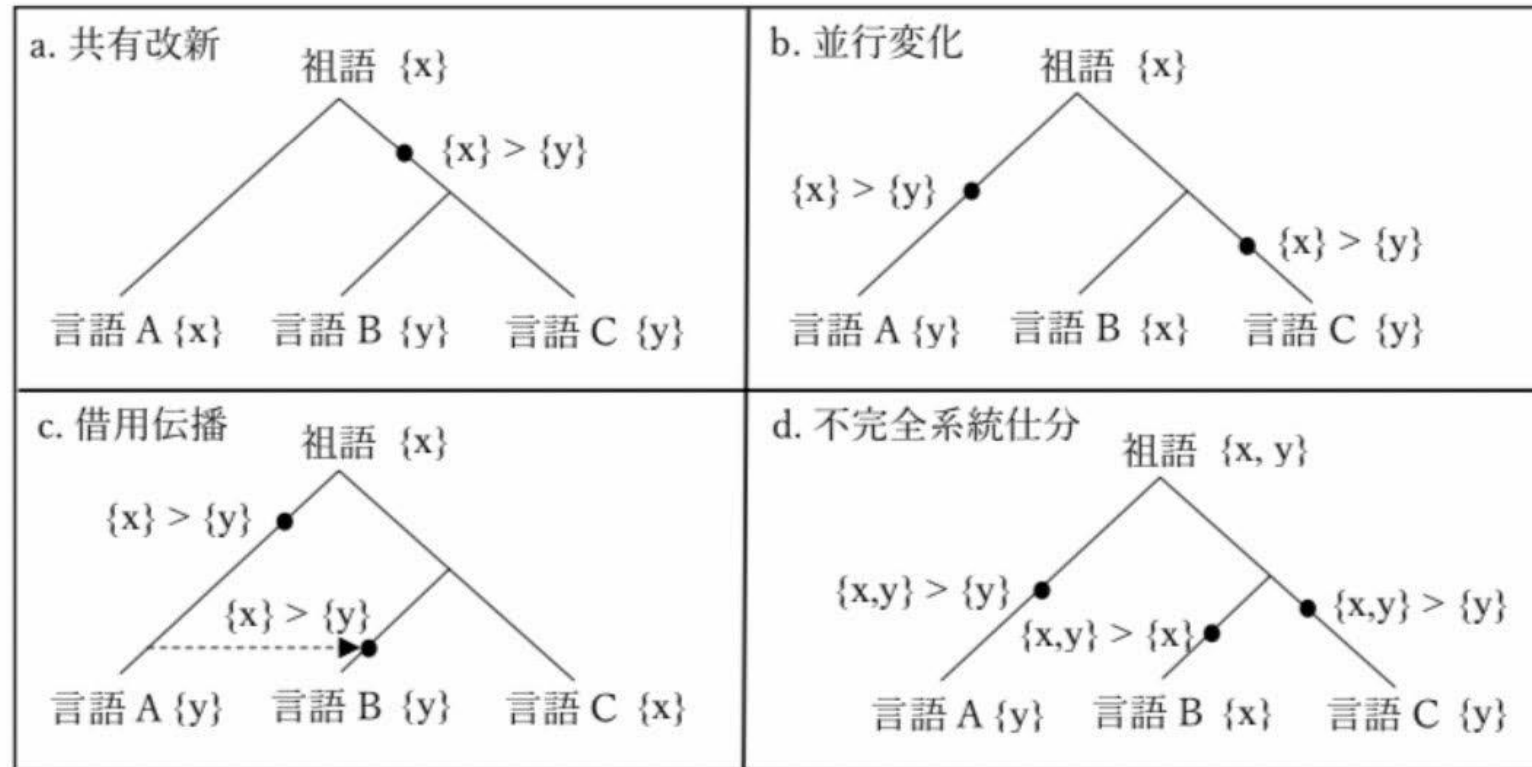


図2 改新の共有に関する解釈 ($\{x\}$: 言語状態、 $\{x\} > \{y\}$: $\{x\}$ が $\{y\}$ に変化する)

[x]

: 99

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1

△

4

→

a.

2

[y]

[x]

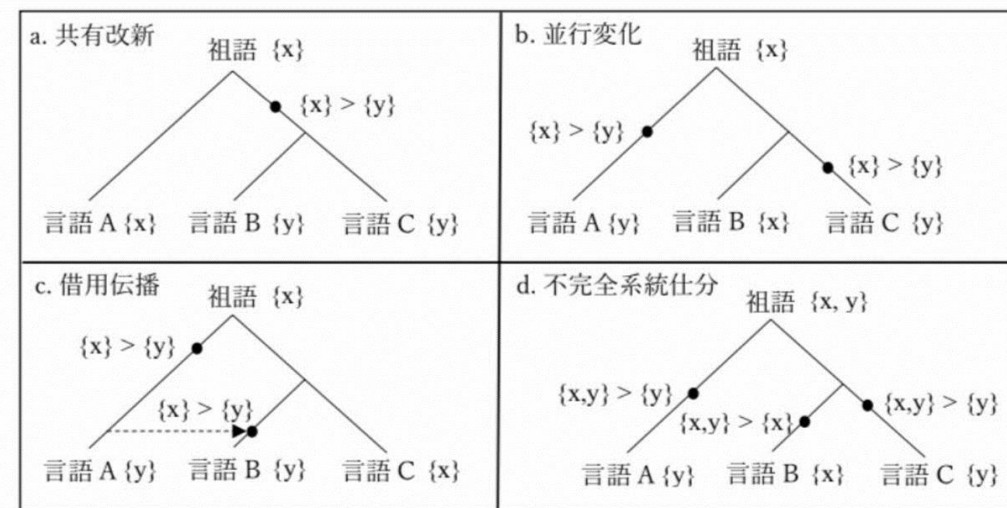


図2 改新の共有に関する解釈（{x}：言語状態、{x} > {y}：{x}が{y}に変化する）

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

1

：

_____ ()

△

△ →

→

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

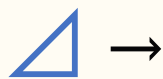
結論

質問等

発表紹介②

1

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



(: 99)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

1

琉球列

-

表 1 共有改新の例（ローレンス 2000, 2008, Pellard 2009, 2015, セリック 2020）

レベル	共有改新	変化タイプ
南琉球	a) 「幾つ」のアクセントの不規則的变化：B > A	ア変化
南琉球	b) 「庭」の語形：minaka 系	語形
南琉球	c) 「一人・独り」の語形：*tagukjaa	語形
南琉球	d) 「額」における不規則的变化：*p̥itaɛ > *putaɛ	音変化
南琉球	e) 「～てから（継起）」の文法的形式	文法化
宮古語	f) 「～も（累加）」の標識：=mai	語形
宮古語	g) 「頭」の語形：kanamaŋ	語形
宮古語	h) 「丸い」の語形：maaku	語形
宮古語	i) 「濡れる」の語形：mmi-	語形
宮古語	j) 「首」における音位転換：*kubi > *pugi > fugɿ	音変化
八重山語	k) 「切れる」*kire- の可能形としての文法化	文法化
八重山語	l) 「芽」の語形：bai	語形
八重山語	m) 「嬉しい」の語形：sani-	語形
八重山語	n) 「垢」の語形：gaba	語形
八重山語	o) 「甥」における意味変化：「甥」 > 「甥・姪」	意味変化

d j:

(: 99)

:

(: 99)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

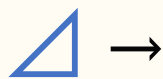
結論

質問等

発表紹介②

1

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



(: 99)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

α N



琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

()

(: 100)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N



11

2

7
2



203

()

発表紹介②

いん N²

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

i̇ ~ N̂



:

ujantsu
kanamai / kanamarja
()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N²

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N



(Celik et al. 2014)

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

UniCog

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

i^u N^u

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
— 言語系統樹の客観的作成手法を検討する —



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



→

1

0

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

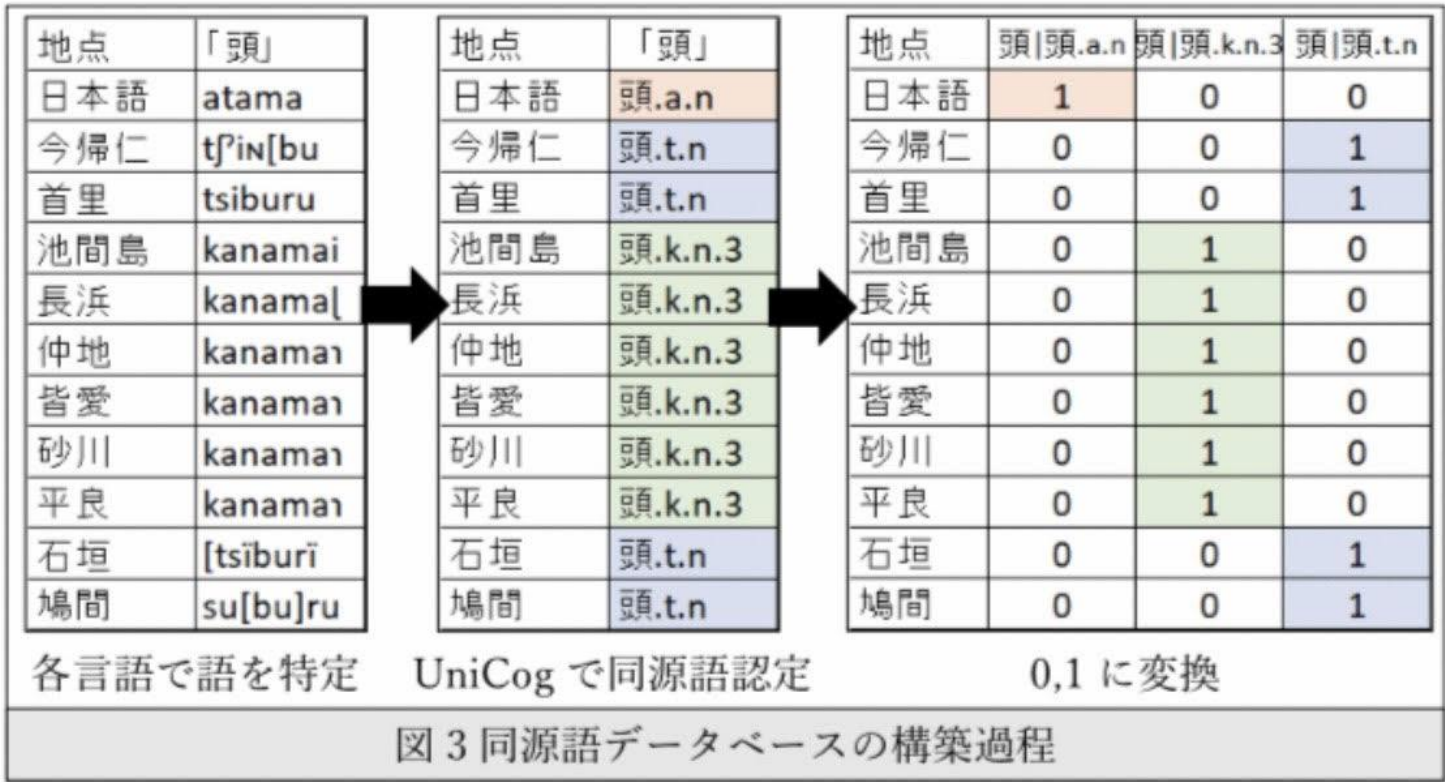
結論

質問等

発表紹介②

いん N

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
— 言語系統樹の客観的作成手法を検討する —



: 101

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N²

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



要旨

前提知識

目的

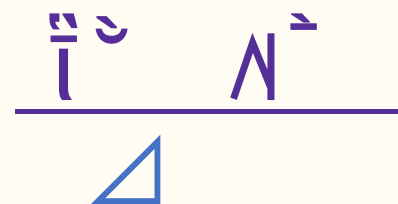
研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②



琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

11

1

498

0 1

p-distance

'Uncorrectedp

(Nei and Kumar 2000)

1000

(: 101)

要旨

前提知識

目的

研究法

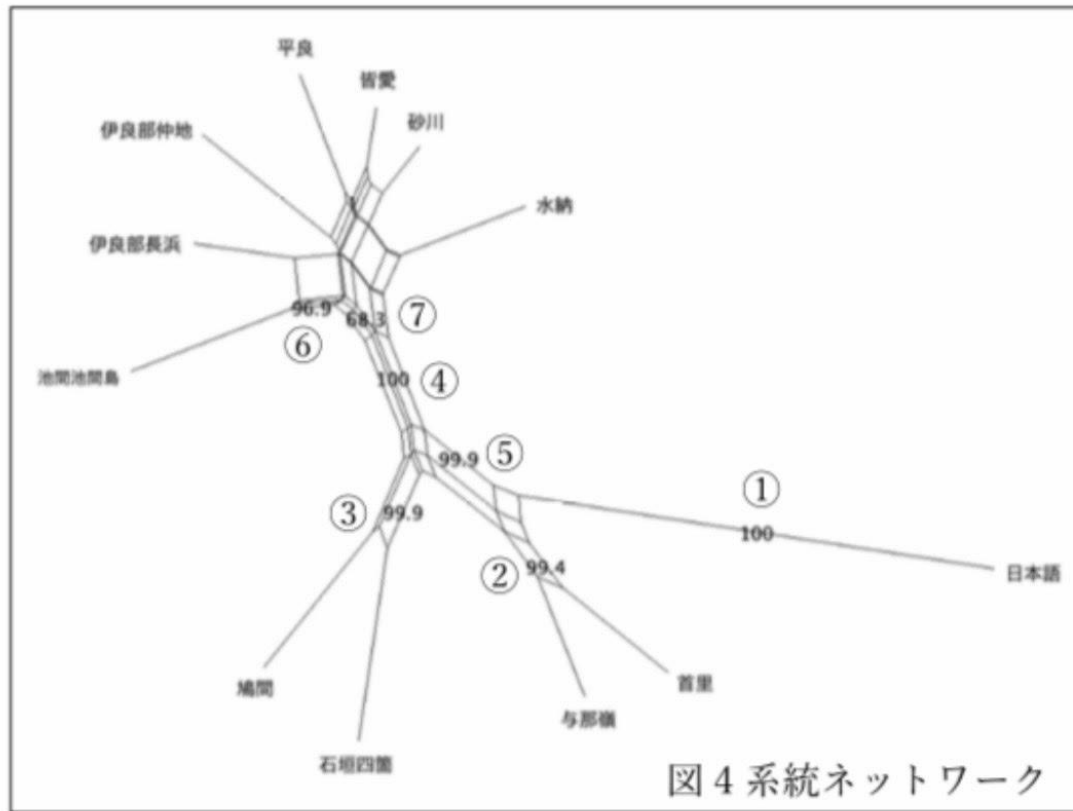
結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



: 102

要旨

前提知識

目的

研究法

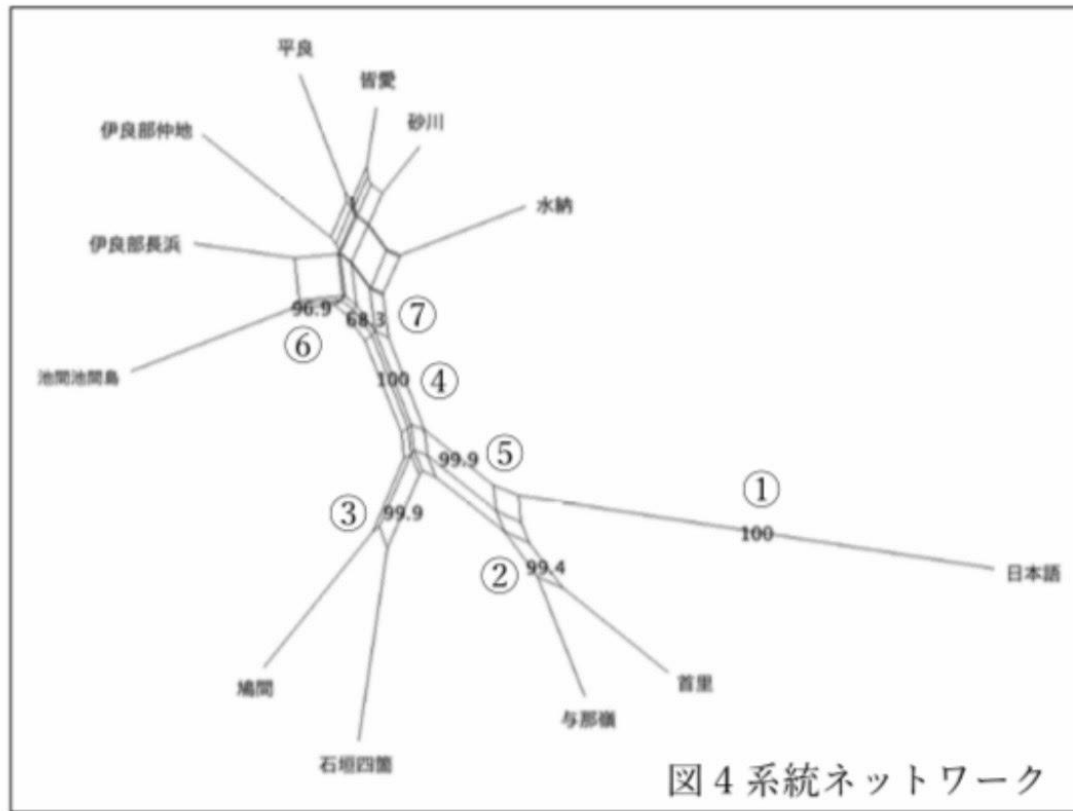
結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



100%
99.4%
99.9%
100%

: 102

要旨

前提知識

目的

研究法

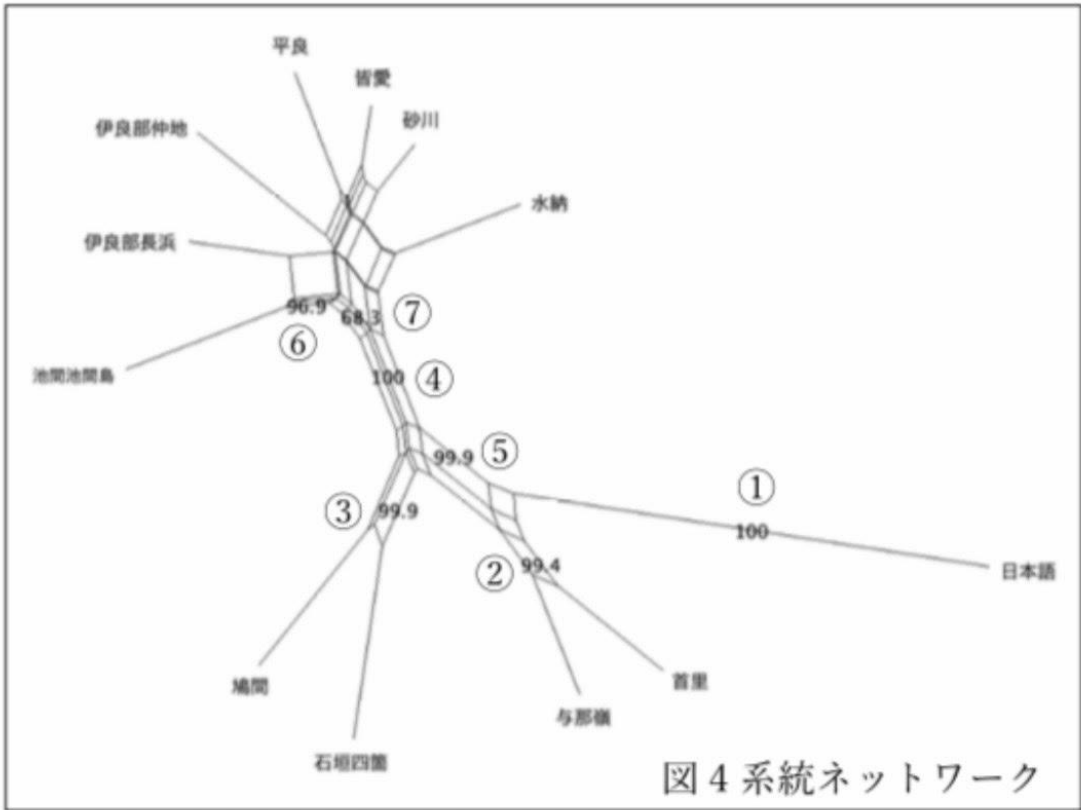
結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



100%
99.4%
99.9%
100%

() 96.9%
68.3

→ 1

: 102

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—



(

())



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

～、



(: 103)

要旨

前提知識

目的

研究法

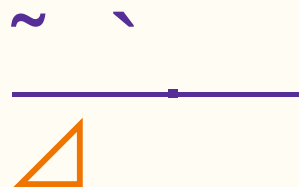
結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
— 言語系統樹の客観的作成手法を検討する —



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

～、

—



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

～、

—



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

～、



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

～、



(: 103)

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

いん N



:

ujantsu
kanamai / kanamarja
()

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

i^u N^u



(Celik et al. 2014)

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

UniCog

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介②

琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて
—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—

3

(

)



要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

目次

- - - - -
- - - - -

発表紹介③

1. 〰 δ 〰:

1. 〰 1:

()

C-4

要旨

前提知識

目的

研究法

結果

結論

質問等

発表紹介③

現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示

i

:



:



→DOM

()

発表紹介③

現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示



: 119

*

発表紹介③

現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示

i

:



:



→DOM

()

発表紹介③

: Sedler 2002

現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示

(1723)

(11)
(1964) 1 2

DO

(: 123)

発表紹介③

現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示

: Sedler 2002

→

(1224):

()

→

→

:

→

目次

- - - - -
- - - - -

全体の感想

→

→

全体の感想

↓ Ū ↓ A-1

A

1

1

全体の感想

↓ Ū ↓ P-15

目次

- - - - -
- - - - -

次回大会

√ 1 √ 169 1 1 1

2024 11 9 () 10 ()

:

:

:

()
()

日本語学会第168回大会 大会報告

服部壮留

東京外国語大学 博士前期課程

ご清聴ありがとうございました。